

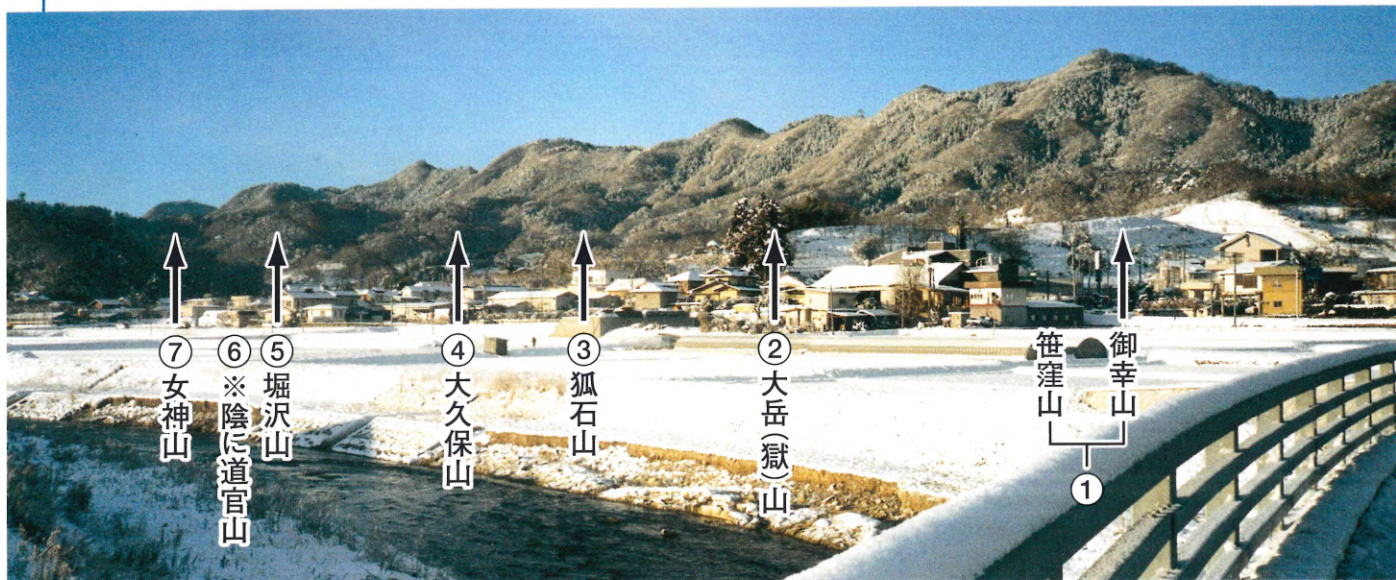
西の山並み七ツ森

霊山県立自然公園
道先案内人会会長

あ べ め い ぎ
阿 部 明 義

盆地型をした本町の西側の町境を南北に連なる山並みは、古くから「七ツ森」と呼ばれています。この山並みに沿って林道がつくられていて、「七ツ森林道」と命名されています。この七ツ森の山並みの北から南へ4.8kmには、次のような山々があります。

- ①「御幸山」(ごこうぜんとも呼ばれる。)・笹窪山 ②「大岳(獄)山」 ③「狐石山」
④「大久保山」 ⑤「堀沢山」 ⑥「道官山」 ⑦「女神山」



前柳橋から望む月館の里山「七ツ森」

御代田地区の守り神、羽山神社奥ノ院が祀られる「御幸山」



羽山神社奥ノ院と山頂

御幸山山頂は岩石であり、下部に岩屋があって、御代田の守り神・羽山神社奥ノ院が祀られています。今も山頂周辺の植生は、ケヤキの林になっていますが、昔は大木があって、女の人の髪(丸髷)に簪をつけたように見えたと聞いております。保原方面からは、カンザシ山と呼ばれていたそうです。御幸山には、“おやまの大蛇伝説”が伝えられています。「大蛇の化身かと思わせる怪根」は、大蛇と見間違えるほどよく似ています。今も観世音様と里人をお守りしているかのようです。



大蛇の化身？と思わせる怪根

めったに人の行かない「大岳山」おおたけやま

大岳山は、尾根が上り下りを繰り返し、山頂に着いても見通しが利かないので、期待はずれかと思いますが、見どころとしては、50m～60m下ると「法印コロバシ」という奇岩があります。目の前が明るくなり、岩上よりの南前方に狐石山の全容がながめられます。先に進むには、下りる道とて特になく、岩を這うようにして下りるか、岩の周りを遠巻きにするしか方法がないようです。この一帯は、月館側は急な斜面で危険が伴う所です。



大岳山の山頂にて



「法印コロバシ」とよばれる奇岩

信仰の山として大切にされてきた「狐石山」きつねいしやま

狐石山は、地元では通称「羽山—麓山」はやまと言っています。山腹には、巨大な岩が南面に岩屋をつくり、三社が一体となった立派な木板（コバ）葺きの社が祀られています。古い木札には、天正13年11月3日の日付があることから、今から400年前の建立となります。この大岩の先にも大きな岩（頂上になっている）があり、上には「金華山」と刻まれた碑が祀られています。

この山は、古くから信仰の山として大事にされて来たことが周囲の状況から推察できます。

登山（参拝）道は、林道沿いのあづま屋下手200m付近より杉林に沿って開かれています。



400年以上前の木札のある山腹の社



「法印コロバシ」より見た狐石山

見張り場があったと推察される「大久保山」の山頂



人が削り取ったような跡がある大久保山の山頂を望む

大久保山へは、狐石山（羽山）と同じ道を登り、尾根（峠）に出たら左へ踏み跡を頼りに登ると、北に岩場が見えてきます。山頂と思われる所は、人間の手が加わえられたような形跡がある地形となっています。

東南部～西部方面が特に見通しがよく、歴史的に「見張り場」のあった所ではなかったかと思われます。ここから堀沢山の三角点へ尾根が続きますが、町境は西に下り、堀沢林道小国側の橋のたもとに出ます。この橋の下を流れる清流には、かつては、サンショウウオが生息していましたが、現在、魚類の姿が見られないのが残念です。

隣り村と通じる峠がある「堀沢山」

堀沢山は、国土地理院の三角点が設置されているところから、地形図（5万分の1）では御幸山に次いで山名が記されています。

七ツ森林道のなかで山越えをするのは、この林道だけです。かつては、この一帯は萱刈り場でした。また、隣村と通じる唯一の生活文化の峠であったと聞いています。今は、雑木、植林地になっています。

尾根道を妨げるように地蔵様の立つ「道官山」

道官山にも国土地理院の基準点が設置されています。これより先は露出した大小の岩尾根を進み、鞍部より少し登ったところに、尾根道を妨げるように地蔵様が現れます。不思議なことに北から見ると「老婆」に、南から見ると「和尚様」に見えます。この前を通る人は、手を合わせて拝まずには通り抜けできない不思議な想いにさせられます。この地域では、キツネ・タヌキ・ウサギが生息し、尾根筋はイノシシの移動ルートになっているようです。

長畑集落の上部を坂壁山に至り鞍部に出ると、女神山への急な斜面を裏から直登となります。周辺は藪が密生しています。



角度で違って見える地蔵様



山頂からは、月舘町が眺望できる

「うつくしま百名山」に数えられる「女神山」めがみやま

女神山は、うつくしま百名山のひとつに数えられ、年々その人気上昇しています。展望のよさに定評があるのと、里山・低山であることで、最近の中高年登山ブームから女神山登山を楽しまれる方が増えているようです。

この一帯には、七ツ森の南端に位置することから数種の植物が群生しています。そのなかで、春一番にカタクリの可憐なピンクの花が山腹に咲き乱れる様は見事です。また、山頂付近のこぶしの大木が一斉に白い花を咲かせるのも圧巻です。



春の青空を背景につぎつぎと咲くコブシの花



里山には珍しいダケカンバ



春の知らせを運んでくる山頂のカタクリ

な な つ も り

七ツ森の自然を守っていくために

七ツ森は、総体的に山懐が浅く、そのなかで南に位置する女神山（水雲山・雨乞山）と、北に位置する御幸山（御光山、五幸山など）は北と南にあって、信仰の山として里人たちから大切に祀られてきました。今後、これらの山々・七ツ森の自然を守っていくには、里山としての利用区分（守るところ）を明確にして、神々の住むところとして敬いながら、野生動植物の生息自生できる山の手入れをするなどの保護策をはじめていく必要があります。



あ べ め い ち
阿部明義

霊山県立自然公園道先案内人会会長。環境省の自然公園指導員、福島県自然保護指導員を務めるかわら、福島県生涯学習インストラクターの会のメンバーとしても活躍。学びの達人、遊びの達人に認定されている。昭和13年生まれ。伊達市月舘町御代田在住。